

◎平成31年度白石市国民健康保険特別会計予算

〔質疑〕国民健康保険制度は、昨年の4月から県単位という形になったが、市町村単位と大きく変わった点などについて伺う。

〔答弁〕まず、今回の制度改正によって、保険給付費の支払いが県から普通交付金という形で交付されるため、保険給付費に係る支払不足の不安がなくなったという点が一番大きなところである。

次に、保険者努力支援制度が本格導入されたことから、市町村の努力の成果に応じて得点を競わせ、それによって特別交付金が決まるという新たな制度となり、また、レセプトの点検確認を県が一括委託して適正化に努めることとなった。

さらに、国保事業費納付金が新たに創設されたが、この納付金については、算定のため市町村の担当者との協議を続けていくという点がある。

◎平成31年度白石市介護保険特別会計予算

〔質疑〕配食サービス事業委託料について、外部事業者に委託するという説明だが、その詳細を伺う。

〔答弁〕本事業で利用している総合福祉センター内の備品設備については、3台の車両や厨房の冷蔵庫、冷凍庫、キッチン、弁当箱などが老朽化しており、更新時期を迎えている。

このまま事業を進めれば、平成31年度は多額の更新費用を準備しなければならず、その場合、配食利用者の負担金を上げざるを得なくなる。また消費税増税による負担金の上昇も見込まなければならぬことから、現在の備品設備は使わず、備品設備を所有する外部事業所に委託し、経費の上昇を抑えた形をとったものである。

このことから、平成31年度は完全に外部委託を行い、事業を継続してするための予算を計上している。

◎平成31年度白石市水道事業会計予算

〔質疑〕アセットマネジメント策定業務について、詳細を伺う。

〔答弁〕本業務は、水道施設の資産について、今後効率よく運用していくにあたり、中長期的な視点に立って水道施設の効率的かつ効果的な管理をするための計画を策定するものである。

◎平成31年度白石市下水道事業会計予算

〔質疑〕流動資産と流動負債の貸借やキャッシュフローをみると、昨年の下水道料金値上げによる効果があり感じられないが、所見を伺う。

〔答弁〕昨年の下水道使用料改定における増収はあるが、下水道事業会計は一般会計からの補助金に頼らざるを得ない状況である。

使用料が増収となっても、一般会計からの補助金がある程度減額となるため、顕著に改善されるという状況にはなっていない。

スマートインターチェンジ設置推進特別委員会中間報告

定例会初日(2月22日)、スマートインターチェンジ設置推進特別委員会の活動経過について、四電英夫委員長より中間報告がなされました。報告の概要については、次のとおりです。

平成31年2月8日に関係部課長の出席を得て、近隣市町で供用開始している2カ所のスマートIC等への先進地視察を実施した。名取中央スマートIC及び山元南スマートICでの現地視察においては、主な事業効果について説明があり、山元町での行政視察においては、担当者の説明を受け、質疑応答及び意見交換を行なった。今回の視察により、改めてスマートIC整備による事業効果が期待できることを認識したことから、今後も時宜を得た活動により事業の円滑な推進を図っていくことを確認したところである。

仙南・仙塩広域水道の料金見直しを要望

3月15日、志村新一郎議長ほか議員13名が県庁を訪れ、村井嘉浩知事に「仙南・仙塩広域水道の料金見直しに関する要望書」を提出しました。志村議長はこの料金は、30年前の水道使用見込みに基づき算定された料金であり、受水市町間において非常に大きい料金差がある。平成32年4月に控える広域水道料金改定の際に、現状に合った公平な料金体系の見直しを求めたい」と強く要望しました。



要望書提出の様子(白石市議・村井知事・宮城県議)